

平成23年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

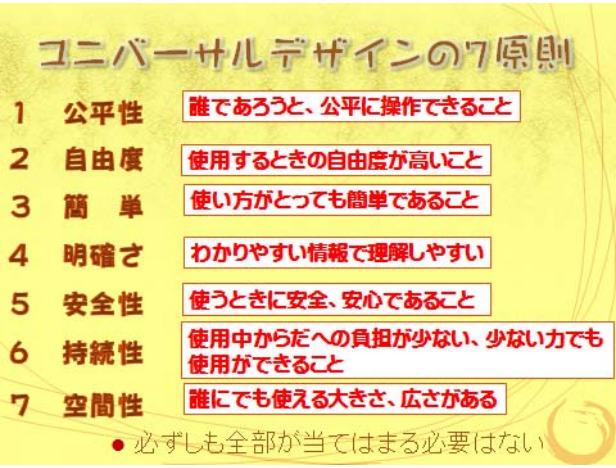
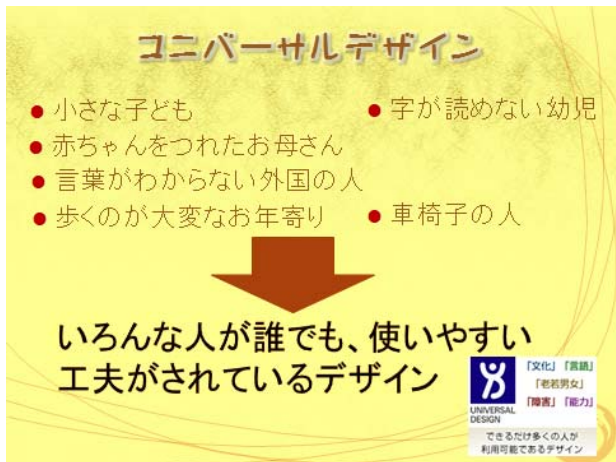
1 学校名	神崎市立神崎中学校		
2 所在地	神崎市神崎町鶴3565番地		
3 校長名	平川 未代		
4 学級数 児童生徒数	16学級 492人	5 実施学年 児童生徒数	1年 164人

6 取組のねらい

ユニバーサルデザインの考え方を生活に取り入れることで、誰でもが生活しやすい環境を意識させ、他者への思いやりを持った人間形成ができると考えた。

今回の取り組みでは、生徒の身の回りや生活の中にあるものの中から、スプーンを取り上げ、ユニバーサルデザインの考えをもとに、誰にでも使いやすくするために、形状や材質、重さや大きさなどの面でどんな工夫ができるのか考えさせ、体験活動や話し合い活動を通して、他者の多様な見方や考え方があることを実感させたい。

7 取組の実際



ユニバーサルデザインとバリアフリー

バリアフリー

- 障害の部位や程度によりもたらされる今ある生活の中のバリア(障壁)に対処する。障害を持っている人が生活しやすい道具や環境に作り替える。
- 歩道に点字ブロックを設置するなど

ユニバーサルデザイン

- 最初から誰でもが使いやすい道具や環境として考えられたデザイン

今日のテーマ

誰にでも使いやすい スプーンを考えよう

● 体験する

利き手に軍手を2~3枚重ねて着け、大豆を皿から皿へ一粒ずつ移してみよう。

● 話し合う

ワークシートをもとに、自分の意見を言い、友だちの意見を聞いてみよう。

● 表現する

話し合った結果をもとに、誰にでも使いやすいスプーンを絵に描こう。

● 発表する

絵を見せながら、自分たちの考えを聞いてもらおう。

私たちの学校は

バリアフリー？

ユニバーサルデザイン？

どっちだろう？



8 取組の成果と課題

生徒たちは活発に活動し、こちらが準備した種々のスプーンを使い比べて、使い易さや使い難さを盛んに論議していた。

どうすればより使い易いデザインにできるのかと、試行錯誤を繰り返しながら話し合いを進め、それぞれの班が個性的なデザインを完成させることができた。

また発表会では、他の班の考えやアイデアに感心したりする姿もあった。

生徒たちは自分たちの学校がユニバーサルデザインの意図を持って設計・建設されたことを知り、より身近に感じたようだった。

今回は1年生の美術学習での取り組みであったが、取り組みの幅を広げるために総合的な学習での取り組みが好ましいと考える。

また、実際に使うことでユニバーサルデザインの考え方が定着していくと考えられるため、学校の中にそれらの道具などを準備し、展示するなどの工夫が必要だと思った。